葉に いこふ 瘦せ顔の つき。
雁よ 雁、 あゝ 假りの 世に
うたてくも つま 呼び＝かはす。
かはす 羽 などてや 比翼。
つくる 列、 あら 強面 二の字。
千萬里 行く方は はるか。
十 二十 はなれぬ つがひ。
かりうどの 小銃の けふり
うたれなは 雌雄 もろともに。
夜は やどる うらの かれ＝葭
妹よ 脊よ つばさ 重ねん。
咽喉 鳴らし、 身を ふるはして
かけり－ゆく ものも ある 世か－
いたづらの われ、 何の まがつみ－
百年の のぞみ つき＝かげ
かの 人の あとゝのみ てる。
かくこそと いまは 示そか、
あをざめて のぞく かんばせ。
影 瘦せて わなゝく 若葉

白銀の ひかりに こほる。
たが ために 細眉 ゑがく、
死出の やま、 にしの とはやま。
「めぐり＝あひて 雲がくれにし」。――
かくれても めぐり＝あひなば
死ぬ までの いのち をしまじ。

＊ ＊ ＊

死ぬ までの いのち をしまじ、
かくれても めぐり＝あひなば。
さるを 何、 君、 くもがくれ――
われも あゝ いけるが つらさ。
あひ＝みても 無からん いのち。
あはでしも つれなき いのち。
いのちころ いまは あだなれ。
なまじひの こゝろぞ にくき。
せめてもの 反魂の 香、
たくはへし つぼも としどり。
くゆらせば おぼろの けふり
その ひとの 香を のみぞ 吹く。

第七回懸賞文藝得點文章つゞき　卅三號

夕方まで維いだ平和も今ハ痕をも止めぞ、みる／＼時と得顔の黒雲、俄にいきはいつく濱風、磯の松ハ聲かぎり、汀の蘆は身をふるはせ、共に皆鳴き叫んで居ました。どうと鯨波をあげて轉げて來る高波、それさへあるに玉と亂れて降るあられ、こゝ慘憺の極でした。　しかし榮枯ハ世の常、やがて風も弱る、波もおとろへる、岩にあたッては身で身を碎いて脆くも散る水玉の中、さても勝ち吶喊か、たちまち聞える美妙の音樂――あゝ、あれは正に千鳥の聲！

右　蘆野潤三郎（イロシロ）

右第三等賞いらつめ二部進呈

冬の夜嵐あれわたるうな原、遙に望めば際限も無い青色の水、相きしッて其間から光る波の物すごさ――立ち騷ぐ音ハ百萬の雷と碎いたのか。墨のやうな雲が空を押領して一分の隙とも見せず、寒さうな月が無理に其間を千切ッてそり／＼下界を覗く體。のぞかせまいと破れ目を縫ふ雲の忙がしさ。骨もこはる北風、その鋭い鋒先きに立ちまじる霰の遊軍、世界も氷むすぶ程の寒さ、地球もわれさうな冷めたさ。その中、大浪の上、寒風の中、たゞよふばかりの千鳥、友を呼ぶ聲もきれ／＼に、そして斷續して飛びたつ數が三つ四つ。あはれ、飛ぶ力も無ささうな。

春が來ても花の俤も見えず、波のしぶきが銀の花とも見せ秋になつても蜀紅の帳も無く、汐路にうつる夕映が唯そのかたみとなるばかり。それ程のあぢき無い處にも猶あるか無いかの命を支へる物もあればあるもの――こゝをわがための無上淨土、極樂の天地、愉快の宇宙と思へばこそ。　つけて思へば洋のこの水、それも昔は溪間をくゞッて旅人の咽喉をうるほした一滴千金の清水、今ハ泰山と額し、世界を呑むばかりの荒浪。むかしはやさしく茂ッた木立ちを漏れて肌と撫でた涼風、今は軍艦とくだき、骨身をつんざく、無情な嵐。これら二のためにむかし命救はれたものハどれ程、また今魂魄と碎かれた物もどれ程。その恨か、浪間に青い影を見せて亡靈もさゝやき、藻草も手向けの花を咲かせて居る事――そこに、あゝ、壯か、快か、可憐か、無殘か、天地たゞ浪風にもまれる千鳥――小鳥の千鳥！

しかし、思ひ直せば、全世界の粹をしぼッた愛情の花、全地球をひたした快樂の雨――かなしい涙、うれしい樂み――詮じれば皆これも萬里無限の間に浮かんだ千鳥です。　今日の淵瀨は明日の白波。達する彼岸は即ち鳥部野の烟たつところ。　喜んで啼けばこそ千鳥も心に快樂を覺えて、そして其快樂のある處がつまり生命を削る場所です。　陸も海も世界は一樣。たゞ見れば何の苦も無い千鳥もその浮き足には隙の無いのみです。……………美然堂主人（セインダイ）

右一等賞の價はたしかに有りますが、作者から賞與を辭

し、たゞ掲載をのみ望まれました故、即ちそのやうに計らひました。めづらしく意匠の高い御作、稀に見る文字です。其類の風體をこひねがはくは和歌にも移し入れたいものです。………………　いらつめ記者

○懸賞文藝新題

○第八回題（唱歌浄瑠璃及び文章に限る）
右　歳暮。　十二月十五日〆切
○第九回題（和歌唱歌詩浄瑠璃及び文章に限る）
右　かるた遊び。　十二月廿五日〆切
○第十回題（何でもよし）
右　美人雪夜にイむ。　一月十日〆切
○第十一回題（何でもよし）
右　難破船の圖題　一月二十日〆切
○第十二回題（何でもよし）
右　處女の愛情　二月十日〆切

右文藝應募者心得

第一　題を種にして成るべく趣向を立てるのを尚ぶ事○第二　唱歌浄瑠璃及び文章は各一千五百字以内の事○第三　一人で二種類の作を投せられる人は二種類別々の紙に書く事○第四　原稿には宿所姓名明記の事○第五　原稿は半紙に限る事○第六　第二第三第四及び第五に背くものは沒書。　賞品は廣告欄にあります。

雜纂

諸色取り合はせ方（三十三號つゞき）

其三　紫と黄

紫は間色、すなはち二種以上の單純な色が合した色で、われ〳〵が紅と緑とを持てば之を合はせて紫が出來ます。そして又緑は青と黄とを合せて出來る物です。それ故に紫の成分を式であらはせばかうなります。——

紫＝紅＋緑、緑＝黄＋青、故に　紫＝紅＋黄＋青

すなはち、言ひ更へれば紫は紅が二、黄が一、及び青が一、これらが合した色です。

すべて色の合ふ合はぬは双方の色が同じ原の色を含むと含まぬとにより違ふ物で、互に同じなのを有ッて居ても相手の含み方が少いならば疵は起らぬ者です。今紫と黄とはよく合ふものゝ、しかしよく調べれば其實前のとほり互に同じ色を持ッて居ます。双方に黄は有ります。が、幸に片方は黄一個、そして片方は僅に四に對する一だけの黄ですから、双方の黄と黄との間に、三の相違が有る、これがため難は無いのです。

紫と黄と合はせるに當ッては、それ故、黄が薄いと旨く合

はなくなります。　むしろ黄が濃過ぎても殆ど害は起こりません。　そして此取り合はせは嫩々しく、品のいゝ色合ひですから、年若のいらつめなどの服飾に用ゐて極愛らしく見える物です。　やがて後に至り、すべての色を取り合はせた、着物の見本をも出しますが、今一寸かいつまんで半襟について言へば、紫（藤紫でもよし）の半襟に金糸で縫ひをするのは此故で、そして此柄嫩々しい肉と取り合はせて言ふに言はれぬ程の趣が有ります。　が、土臺からしてわか〳〵しいと言ふだけ有ッてまづこの色合ひは派手な方。　それ故、老人や男子や中年以上の婦人には向きません。　しかし次の紫と淡紅色との程では有りません。

其四　紫と淡紅

淡紅と一口に言ふものゝ、今日俗には色々な薄色を淡紅と總稱します。　即ち猩々緋、紅、茜などの淡色を淡紅と一口に言ひますが、其實の淡紅色は紅のうすなくッた物、即ち天然の色で例せば、桃の花、蓮、海棠の中の花辨、八重櫻、薔薇などの色で、それゆゑ別に呼んで「モヽイロ」、「サクライロ」、「バライロ」、「ナトメイロ」　などゝ言ふのは差し支へありません。　此色は非常に優美な色合ひで、まづ色の中では最高等の上品なもので、また紫は艶麗な色で、それ二つ取り合はせる事ゆゑ、言ふまでも無く艶麗で、かつ優美な色合ひになります。　が、紫の中には紅をも含んで居ること、それ故それに對する淡紅も有る事とて、紫と淡紅とを取り合はせた色合ひの樣子は何と無く、すこし窶れた、即ち品格がやゝ下ッた、派手な取り合はせになる物です。　勿論わかい淑女方にのみ合ふ色合ひですが、それにしても外に何か非常に高尚な色を大きく取り合はせぬ時には全く品位の乏しく見える物です。　これら二色、そのよく映り合ふ點に於ては實に類も無い程です。　たゞ品位に於てやゝ下るのです。

しかしながら淡紅の領分を紫よりよほど大きくすればそれ程に品位も落ちません。　前にかれ是言ッたのは紫の領分が淡紅のより多い場合ひですが、反對になれば餘程、品位が出ます。　半襟について例しましやう。　一面が紫地で其處へ櫻の花でも淡紅色でこぼれて居る半襟と、また一面が淡紅地で片輪車でも其處へ紫で散らしてある半襟と見合はせたなら、言ふまでも無く、前の方が目につよく來て、そして後の方が輕く來ます。　嫩々しさを言へば、後の淡紅地の勝ッた方は前の紫地の勝ッた方より猶わかいです。　で、用ゐる日には、

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

前のを十二三歳乃至十五六歳のいらつめに飾らせ、また後のを十六七歳以上廿歳前後の貴婦人にあて丶宜しいのです。そしてたとひ品位ハどうでも、更に年齢にかまハず、之を濫用するのは最も笑ふべき事です。此頃のある部分の流行にや丶之に似た好みが出ましたから、故さらに細く論じました。

文章符號の解釋

文章の符號も近頃になッてハ中々多く用ゐられて來ましたが、猶亂雜で中々一致ハ爲ません。今こ丶に之を近頃用ゐ出した由緒を擧げれば、中にハ古いのを再興したのも有りますが、創業は大抵左の種類でした。——

「、」「。」……金港堂の理科讀本。美妙齋氏の新體詩。

「‖」……美妙齋氏の新體詩。

文と文とを分離して書く事。及び章句の頭を一二字下げること。……金港堂の理科讀本、いらつめ。

「﹆」……美妙齋主人。

「……」……春のや主人。

「？」……春のや及び美妙齋兩主人。

「！」……美妙齋主人。

「——」……紅葉山人、次に美妙齋主人。

「!?」……二葉亭四迷氏（が、まだ行ハれません）。

「✿✿✿」……須藤南翠氏、次に美妙齋主人。

唱歌に毎語はなして書く事……美妙齋主人。

「」を語とし、『』を語中の語とする事……美妙齋主人其他。

『』を語とし、「　を語中の語とする事……報知新聞。

（）……紅葉山人。

大抵上のとほり、外に頭字に飾りを添へるのハ美妙齋主人外題と繪でかざるのは硯友社から始まッた物です。兎に角文章に符號の必要をば今日すでに諸人がみとめました。が、今の處間々これら符號の解釋を試るものも有りますが、吾々ハ斷じてそれを無益と言ひます。符號はもと／＼文に伴ふもの。元の文がまだ定まらず、隨ッて文法を正しく述べた物も無いところ、それに向ッて符號の充分な解はとても望めません。今解釋したにしろ、其解釋はたゞ筋道を言ふだけの物です。吾々は正しく文法を述べる人の有ッた後、完全な

解釋の出るのをのみ望みます。

新年歳暮クリスマス用流行名刺

すべてひねつた、いはゆる粋がゝッた名刺は正式に用ゐぬ物で、自筆、色刷の名刺などは新年にあまり好もしくない物です。　それも親しい友だちの間がらなら宜しいですが、唯ひとわたりの向きへは避けるべき事です。　クリスマスは之とちがひ、やゝ面白づくになッた物ですから氣取ッた名刺も一時の興になります。　歳暮は新年儀式と同じ格にしてもよく、又クリスマスと同じにしても宜しいです。

一　新年用名刺　これは印刷局の紙に楷書(自筆で無い)か明朝風の活字で刷ッたのが大人しくて面白いです。　形は長方形のわるく大きく無い方。　清朝風の活字は稍すたれました。　隷書はすこし氣取ッた方になります。　用紙は印刷局の紙を臺紙として書箋紙をうたせたのも宜しいです。

二　クリスマス用名刺　これは色々な、かはッた新形が有ります。　箱根製造の楠の薄板（紙ぐらゐの厚さ）に護謨印で名を刷ッた物が最も高價なもので、また廉價で一寸體裁よく出來るのは印刷局の紙に紋紙を打たせたのです。　普通の紙に石版摺りで、名のみか、摸樣とも付けるに於ては薄墨か薄鳩羽の古代摸樣がもつとも高尚に見えます。　何の紙にせよ、名の上へ自分の紋處のヤッシか又は花押と白で打ち出させるのも一寸凝ッた工夫ですが、すこし打ち板に値が張ります。　字體は嵯峨樣でも面白いです。　この種の名刺になッては楷書より草書隷書又は平假名、行草の萬葉假名の方がよろしいです。　この外新奇な形も澤山有りますが、あらましにして略します。

新年歳暮クリスマス用流行狀袋

是も道理は前のと同じ事、品のいゝのは白紙の狀袋です。
それ故クリスマス用のをすこし擧げましやう。
それには狀袋にのみ趣向を置くのと、また中の半切れ、及び狀袋双方共に呼び合ッた趣向を置くのとの二つ有ります。
前の方はやすく出來ますが、後のは左樣行きません。　クリスマスは歳の暮、それ故年のくれに關係した繪がらと簡略にあらはしても面白いです。　年のくれの繪がらは大抵新年のに近い物ながら、その邊で興は充分有るとです。

まづ第一、備へ餅を置いてその側に輪じめを一二本横へて置くのも宜しいです。　蝦が橙にたはむれて居るのも宜しいです。　紙鳶に祝意の文言を何なり書きこんだのも宜しいです。　松を出して「……をマツ」などゝ葦手風にこしらへたのも宜しいです。　わゝちを出すのは古い形ゆゑいけません。外に蛙や夏虫などを描くのは時候不相應ゆゑ嫌ふべきことです。　雉子や鳶のやうな縁の少ないものもいけません。
以上は狀袋のみの趣向ですが、また半切れと狀袋と呼び合ふ趣向にはこれらが宜しいでしやう。　即ち狀袋に鐘馗が双手を開いて驚いて居る圖を書き、半切れに鬼が鐘馗の劍で髯でも剃ッて居る圖を書くのです。　又は狀袋に鶴を一二羽かき、半切れに澤の葭蘆を描くのもよく落ちついた趣向です。又は狀袋に猿が上を向いて今や上へ行かうとして居る体をかき、半切れに密柑の梢と見せたのも働きの有る趣向です。まづこの類で外にいくらも有ります。
狀袋の形は細長い方でも四角なのでも宜しいです。　扇子形のでも宜しいですが、繪により究窟を感じますから、よく考へるべき事です。

口書枯れ葭に鴨の解釋

口書枯れ葭に鴨の圖案はさして新しい物でも有りませんが兎に角色々とりあはせて新にたてた物です。　是は押し繪の圖案にもあり、硯箱の函の意匠にもなります。　又歳暮から新年へ掛けて名刺のかはりにして刷り、廣く知己に配る紙の圖案にもなります。　これは西洋に多く流行しますが、はなはだ愛らしい、高尚な交際法で、いらつめ方が美想を練るため隨分爲されて宜しいです。　その見本にもなるためとて今度この口書を出したのです。　上の式紙形のところに思ふままの文句を書き入れ（謹賀新年）といふやうにて御差し送りになッて宜しいです。　やがて新年のいらつめでは美妙齋主人が一つ外の圖案で愛讀諸孃へ此類の賀儀を是非さしあげます。　どのやうなのが出るか折角御待ちを願ひます。

社告

右名刺狀袋及び新年賀壽紙等の圖案及び刷物等を精々廉價且美麗高尚に成美社で致します其詳細は廣告欄に有りますから就て御覧下さい

成美社

束髪少女の貸本屋

怪報を投書で傳へた人が有りました。 其文意によれば番町邊に女生徒風で二三人共同して貸本屋を爲るものが有るとの事で、そして其女生徒風の人ハいづれも可なり英語をはじめ普通學を解する樣子もあり、たゞのものとは見えぬ程とのこと、その家にハ小説其他の遊戲書物が澤山あッて、見に行くものは多く男子だとの事です。 婦人が職業に志したとして賀していゝ事實でしやうか。 しかし更たけるまで談笑する聲も聞えるといふ事を聞いた處で思へば、或は家の女生徒風の人が來客もろとも打ち解けて居るのかも知れず、曖昧な投書ゆゑ深い處ハわかりませんが、傳へた處だけは右のとはりです。 婦人に關係した事をする人の共に注意していたゞきたいものです。

茶の汚點を去る法

衣服についた茶の汚點はリスリンを些しつけて洗へば見事に落ちます。

寄書

いらつめの一大改良を許す

金富たみ子

記者先生がた相變ハらず御文筆ます〳〵御盛んの事、まこと〳〵に御嬉しう存じ上げます。 さて先頃は無類の一大御改良、月一回のが月二回、月二回のが月三回にと飛ぶは世の常のところ、一月一回の御社いらつめが忽ち月四回と御成りとハ殆ど夢のやうで、御奮發の程はたで見る目も心よく、それに定價と申し、記事と申し、他に比類無き御獨得の御手の内まことに妾等のためにはこよなき良敎師で御座います。 素より文學美術化粧及び流行に於てはたれ知らぬ者も無き美妙齋先生の御監督遊ばす事、他に比類わりやうい御座いませんが、こゝに一つ御社のため甚だ惜しむ事は定價あまりやす過ぎる事で御座います。 廣く世の婦人を御愛し遊ばす御心からはたとひ月のもる貴家の賤の女も買ひ得られるやうにとの、記者さま方の御志しでも御座いましやうが、多數の恩にもれた娘御の中にハ二錢五厘と申す定價を見て、あまりのやすさに驚かれ、それがためつひ手出しもせずに終る方が御有りのやうでございます。 誠に殘念な事、御雜誌に厚く歸依する妾等に取ッても口惜しき限りに思はれます。 淑女誘導、否、廣く申せば文學美術流行化粧相整ッてまゐる唯一の御雜誌の事なれば些しハ品格を御作り遊ばした方が却ッて宜しいかと一存に存じます。 たよりの美をみとめる多賀の頒主は少ない世の中でござ〳ますからよく御考へを願ひ上げます。 今少々價が高直に成りましても決して御損にハ爲りますまいと存じます。 釋迦に說法とやら申す言葉に似た申し分でございますが、思ひの儘ひとふでしめしました。

元來成美社にあて彼是御褒め辭を下さッた方ハ今までも可なり有りましたが、美辭を戴せるのは何やら後ろめたいまゝ其類は悉く沒書にしましたが、今この金富女史の御許言は一理ある御言葉ゆゑ、これに限り其儘をのせました。 が、定價を高くするのは吾々記者の望まぬところで、折角の御忠告ながら是はたゞ御忠告を感佩しただけにいたします。 餘の事に於ては益々御望みに背かぬやう今後ます〳〵盡力する心得です………………いらつめ記者

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

花及び色について　大江りん子

米國雜誌で此頃米國人が最も好い花を知らうとて投票を募ッたと承りましたが、まづ其眞似をいたして妾もいらつめの餘白を拜借して全國御婦人方の御好きな花とまた色合ひの御投票を願はうと存じます。　何の花にしろ、何の色にしろ、各別の紙に五種以下御しるしの上成美社へ御送り下されたく其上はいらつめ記者さま方が御投票と御撰みになる事でございましやう。　妾は此事が一寸いたした事のやうで、大に日本、御婦人方の御好みを伺ふ事が出來る、有益な事と存じますが、如何なものでございましやう。　記者先生どうぞ妾の願ひを御許しの上もし御贊成ならば何とか御言葉を御添へ下さいませ。　さしでがましくはございますが、まづ妾から好みを書いて見ましやう。　中にある番號のはじめにあるのが最も好むものでございます。

花

一　水仙
二　梅
三　藤
四　櫻
五　山吹

色

一　とき色
二　白茶
三　もえぎ
四　鼠
五　紺鐵

如何にも面白い御望み、記者も贊成です。　全國の貴婦人方何とぞ御投票を願ひます。　御投票〆切りは些し長くして來年一月十五日と爲ますからそれ迄に御送りを願ひます。一番多い點數の花や色と三つ以上おえらびの方にハ開票して掲載の上いらつめ一部さし上げます…………いらつめ記者

唱歌なつかしき故郷　山本良

一

とりの　ねふりを　さます　らん、
　のべ　ふき‖わたる　花の風。
こゝろ　のどけき　れるの　あさ、
　ふるさと　いとゞ　なつかしき。

二

かきねの　むしも　ねを　とめて、
　月より　落つる　かねの　こゑ。
ゆめ　おどろかす　秋の　夜半
　ふるさと　いとゞ　なつかしき。

三

家を　はなれて　はや　みとせ、
　ちゝはゝ　いかに　ましまさむ。
月　すむ　ゆふべ、花の　あさ
　ふるさと　いとゞ　なつかしき。

諸孃へ御相談　竹村うめ子

妾事は信陽の片田舍に生ひたち、今日まで只父母の膝下にのみ罷り在り、力作に從事致し居り候ふ間、世間の様子などは少しも存せず暮らし居り候ふ處、一日妾が無二の朋友にさだ子と言へる人これあり、一の雜誌と御携帶御訪問下され、妾に御貸與遊ばされ候ふ間取る手遅しと拜見仕り候ふ處、貴社御發兌のいらつめ第十五號にて色々士女の學術御研究遊ばされ候ふ事なども澤山御記載てれありて、一々妾が心に感じ、大に悟る處これあり。何卒父母に請ふて出京仕り、相當の職業及び多少の敎育を受けんものと存じ候へども、何を申すも晩學の事に候へば兩親も容易に許可いたしくれず、まことに困却仕り候ひしが、此頃やうやく許しを得候ふま、少しは様子も開き、早速出京いたし候へども、田舍に居りての豫想とは大にちがひ、實業學校とても許多これあり、何れがよろしきやら更に相わからず。　さりとて御語らひ申す人とては無く、今更途方にくれ居り候ふ處、幸ひ本誌は廣くさる筋につき婦人のため有益なる質問ハ紹介も遊ばされ候ふ事に心付き候ふ間、實に御迷惑ながら本誌の餘白を拜借仕り、かなしさの餘り御笑ひをも顧ず、世の御仁心深き諸姉に御伺ひ申し候何とぞ御憫察下され、御敎示の程御願申候かしこ

右委曲まことに深い御情實、それ故記者一己の意見で答へず、廣く在京の諸孃各位から御返書を願ひます。　御指敎の方には一部づゝいらつめを差し上げますが、然し是ハ浮いた事でもありませんゆゑ、御指敎書には御宿所御姓名及びもし何れへか御通學なら其學校の名を御記しの上御送付を願ひます。　同胞の困厄、ことに此竹村孃と同感の諸孃も多分多いこと、折角江湖諸孃の御義心を祈ります。　曖昧な御答書は沒書にします…………いらつめ記者

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

通信問答

心得第一　通信問答ハ無手數の事○第二　御問ひ合せの事が答へを職せる雜誌の八號前にあればそれにハ委しく答へず、只其緣在を言ひます○第三　特に普通に有益と認めた問ひには廣く答案を募ります　第四　御問ひ合せの文字並びに文章は明亮に書くべき事

和田貞子様へ(一)銀杏の葉を書籍の中へ挿むわけ。　是は虫を去るためです。(二)切り疵を空氣にふれさせぬのが早く治る第一の手段です。　藥はいろ〳〵有りますからそれをどれでも付けて常に風にあてぬやうにするが肝要です(三)簡便に酢を作る仕方ハ知りません(四)苺の葉の砂糖を交ぜると酢が出來る。　その酢ハ衛生上無害です(五)醤油の色をよくする法ハ知りません

賤のめさまへ　神經的病即ち生殖器病に利くと言ッて賣ッて居る賣藥も有りますが、中には興奮劑を入れて一寸利いたやうに見せるなどのが有ッて、素人には其識別が付きません。　それ故、其類の病氣は決して恥ぢずに然るべき醫師に御托しなさい。　よく療治せぬと大害をなします。

戸野たけ子さまへ(一)最上髪油ポメータム　デパインは翁屋で製造して差しあげます。　郵券二錢當社へ御送りになれば一割り引きで調製する切手を差しあげます。(二)硼砂ハ大抵何の化粧藥に用ゐるにも溶かして用ゐるのです。

大石みさをさまへ　添削規則は從前のいらつめの定價によるのです。

かをる様へ(一)片桐氏ハ駿河臺北甲賀町十七番地の角で開業して居る皮膚病醫師です。　皮膚病療治にハ巧みな人です(二)手足の赤いのも色々原因が有りますが、御體質を知らぬ事ゆゑ何とも申せません。　開業醫に見て御貰ひなさい(三)手足の皮のむけるのはポマドンスールを塗れば直ります

渡邊かよ子さまへ(一)月の桂とは月球中に桂の樹が有るといふ昔の說から出た言葉。　久方の光りとも「久方」ハ「ヒカリ」「アメ」などの夜ことばであるために用ゐるので。　又うたかたハ矢張り水の泡を言ひます。　又かすみの糸ゆふ、ゝの糸ゆふハ「カゲロフ」とて長閑な春の日などにハ空に浮いて見える糸のやうな物で、光線が目に反射して見ゐる物です。　霞たつ春の長閑の日、霞などをながめると是が見ゐるため、即ち霞のいとゆふと言ひます。

女學校内青木さまへ　毛を縮れさせる法。　毛を熱湯の切れで蒸し、跡へ麥酒を塗りつけ、櫛でちゞれさせる。　この法を幾度も行へば毛ハちゞれます。

疑問(一)太陰暦の明治二年五月廿五日ハ太陽暦の幾日に相當しますか　(二)太陰とを太陽暦に直す法…以上北陸山童○第卅三號疑問　鹿皮の手袋を曹達で洗ッて硬くなッたのを柔にする法…石川信子右御答の方にはいらつめ一部進上●貴答、最初二題ハ本月廿日、第三は十五日限り〆切。

餘興　賞品ハポマドンスール一壺

(一)夜で無くて夏みじかく冬長い物は何でしやう。　當てゝ御覽なさい……槐月陰史(トウケイ)

(二)皿の中へいちじくと入れたら何になります？　木になります。　何の木に？……操竹女史(サポロ)

(三)從弟同士の夫婦と掛けて紐の無い羽織りと解く。　その心は？……加藤利子(イハキ)

(四)なにはづの梅のさかりも吹く風にちりて流るゝ淀の川水。

此歌の意味の人が昔有りました。……山本あい(キヤウト)

(五)有益ないらつめがわづか二錢五厘(魚名三)カナヅカヒ カマハズ

(六)日本國の中の國の名で假名の三字、これを讀み下すと、虫二つとなりますと……山本あい

(七)下手な人と上手な人とが將棊をさして居ましたが、元より下手な人が負けるのは當り前、次第に陣をくづされて敵の駒にあばれこまれ、どうにも角にも爲やうが無くなりました。そこで上手な人が言ふには是で一つ謎と考へたなら負かさないでやらうとの事で、それから下手な人も一心になッて工夫しましたが、終に首尾よく一つの謎を考へ付いて首尾よく負けるのを逃れました。　その時この下手な男が言ッた謎とはたゞ「雷」といッたのみでした。　これに何の意味が有ッたのでしやう。　當てゝ下さい。……しづ子(トウケイ)

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

廣告

いらつめ **合本** 十十一兩月分

豫告の通り合本が出來ましたから來十二月一日から發賣します●其体裁等の如何ほど**優美秀麗**かは一本を御求の上御品評を願ひます●紙數百廿六ペーヂ●定價十五錢五厘府外郵税二錢●廿八號から卅三號まで殘らず合本

成美社

いらつめ**廢本非常廉價賣捌**の處瞬く間に**品切**となりましたゆゑ**更に普通本を**廢本と同樣の**廉價**で賣ります但し**非常**の廉價ゆゑ**割引を爲ません**

一冊三錢郵税各五厘●十二號廿四號皆無●前金領收の上發送

成美社

米國新製**絨氈羅氈塵去り器械**

堅牢無比、便利一等、切地を損せずに秋毫の垢埃をも去る器械○貴紳の住宅に最も必要の品○一個四圓五十錢

樂器樂器樂器樂器樂

ぴアの　おるがん　おるごる　ばいおりん

廉價

器樂器樂器專賣

保險

神田區通鍋町十番地 **高木商店**

○禁酒御下宿

叮嚀親切ニシテ萬事清潔ヲ旨トス女學生諸姉ノ爲ニハ特別ニ監督ス

牛込新小川町壹丁目壹番地 **下宿營業求心亭**

●懸賞文藝賞品……一等賞は清親良信二氏の內御好みの書家の手に成つた書帖丈の大さの肉筆絹地彩色畫一面○二等いらつめ十二部○三等三部

成美社

少年園

少年園第廿七號目次

卷首の挿畫
象虎相鬪ふ

少年園
少年の行路は雙六の如し　岡本監輔

學園
作文心得一斑
象の話(挿畫)
地球の殼(挿畫)

文園
レッシングの譬喩談　石橋忍月
Wasobioye.(英文)　片岡正行
有王丸　梅の家かほる
古錦繡(讀書の樂み)

譚園
後悔(小說)
遊學の栞(東京美術學校)

叢園
早や十二月○廿五日○革命○西京の緋威○歌舞伎座開場○彫工競技會○對抗運動○上野動物園○是眞翁繪畫蒔繪展覽會○故西鄕翁の建碑○裸體美人○歌御會始御題○釋典の古式○小楠公と小學生徒○楠廷尉騎馬の像○新大和魂○天下の奇山水○燒鳥の食ひ方(挿畫)○前號の答案○新著略評○少年界近事

芳園
寄送の文

定價一冊金五錢○十二冊(半年)金五十五錢○廿四冊(一年)金一圓○郵税一冊金五厘○爲替拂渡局本鄕郵便局○第一卷(自第一號至第十二號)第二卷(自第十三號至第廿四號)合本各定價金五十錢郵税金十錢宛

發行所　東京府下北豊島郡上駒込村十九番地　**少年園**

新年歳暮及びくりすます用　流行新形

名刺狀袋繪紙等
最上等石版印刷

本紙雜纂内に出した事と今度から成美社で御注文に應じます（雜纂欄參看）

一　圖案の工夫望みの人は書案の趣意を詳細に認め圖案料三十錢を（郵券代用は五厘切手一割増）送るべき事（名刺は例外）

二　既に圖案を定めて書圖と印刷とをのみ托される人は圖案料送付に及ばぬ事

三　書圖は成美社で清親月耕良信三氏に書かしめ決して他の書を受けぬ事

四　圖案と付けても印刷濟の上で無くては注文者の御覽に入れるのを堅く謝絶する事

五　成美社で作らせる圖は中等密畫（疎畫でも價は同様）の事。

○名刺

	百枚	二百枚
一度ずり	三十錢	四十五錢
二度ずり	卅五錢	五十五錢
三度ずり	四十錢	六十五錢

もし書を加へる事ならば別に書料十錢及び圖案料十五錢を加へる事。

○端書板の書紙及狀袋

	百枚	二百枚
一度ずり	一圓五十錢	二圓七十錢
二度ずり	一圓六十五錢	三圓
三度ずり	一圓八十錢	三圓三十錢

もし圖案御注文ならば別に圖案料卅錢を加へ、又、書を入れなければ一組に付き五十錢引く事。

○端書二倍大の紙

	百枚	二百枚
一度ずり	二圓五十錢	四圓五十錢
二度ずり	三圓	五圓五十錢
三度ずり	三圓五十錢	六圓五十錢

もし圖案御注文ならば別に圖案料卅錢を加へ、又、書を入れなければ一組に付き五十錢引く事。

○右用紙は最良洋紙で前記定價の外別に紙代請求せず、それで石版は優美精巧を究めた物、廉價は言ふ迄でも有りません

●四度ずり以上、二百枚以上、及び前記紙幅以外の御注文ハ別に御相談の上定價を定めます
●刷る御筆蹟は雁皮に記して御送りあるべき事
●御注文の際は清親月耕良信三氏の内御望みの書工を御指名の事
●御注文を受取つて後、一度ずり物は四日間、二度ぞり物は六日間、三度ずり物ハ一週間にこしらへ上げる事
●御注文は必ず前金の事、郵券代用ならば五厘切手で一割増の事
●御注文品出來の上は成美社から御届申す事
●御注文枚數は必らぞ百枚及び二百枚の中に限る事
●字の揮毫をも御托しになる事ならば無手數料で爲ます

東京神田區平永町

成美社